

ほかい 【行器】



うるし 漆 塗りの大型の器で、アイヌでは「シントコ」と呼ばれている。形態によってケマウシベ、クトシントコ、カパラペシントコなどの名称がある。この脚つきの行器には穀物や、大切な器などを入れる。ふたには、飾り金具がついている。シントコをはじめとする漆器類は、和人との交易によってアイヌ社会の中に大量に流入したが、器としての利用価値のほかに、それ自体が宝物としての価値をもった。このため、漆器類の保有数とその家の盛衰を判断する基準のひとつとなる場合もあった。

編集後記

■表紙は浦幌町小学生スピードスケート記録会の様子です。

(選手宣誓は厚内小学校6年の関井翔太君)

■暖冬とはいえ、冬の一日を屋外で立っているのは、身体の芯まで冷えてなかなかつらいものです。それでも保護者の方に混じって子どもたちが滑る姿をみると、それに目を奪われている間は寒さを忘れます。スケートは大の苦手でしたが、風を切って滑ることは今でも懂れています。

(井)

■掲載された写真は、差し上げますので(本人または家族)お気軽にご連絡下さい。